

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	保健体育V A
科目基礎情報					
科目番号	05102	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	実技	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教育	対象学年	5		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	「ACTIVE SPORTS」(大修館書店) / プリント ビデオ教材				
担当教員	伊藤 道郎, 高津 浩彰, 加藤 貴英, 鈴木 康平				
到達目標					
(ア)生涯スポーツについての位置付けを理解し積極的に運動を実践することができる。 (イ)練習やゲームを自ら計画し、実践することが出来る。 (ウ)各種目の特性を理解し、それに応じた練習が出来る。 (エ)自己の体力に応じた運動の量と質を自ら設定できる。 (オ)一定の運動量を獲得し、基礎体力を高める。 (カ)自他の健康・安全にも留意して学習が進められる。 (キ)集団での戦術を理解し、実践することができる。 (ク)個人での戦術を理解し、実践することができる。 (ケ)自らの体力レベルを理解し、体力目標を設定し、目標達成の為に積極的に努力することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
	数人でグループを作り、決められたグループ内のメンバーで協力してスポーツテストが実施できる。	グループ内のメンバーと協力してスポーツテストが実施できる。	グループ内のメンバーと協力してスポーツテストが実施できない。		
	数人でグループを作り、決められたグループ内のメンバーで協力して様々な競技種目が実施できる。	グループ内のメンバーと協力して様々な競技種目が実施できる。	グループ内のメンバーと協力して様々な競技種目が実施できない。		
	各種目の特性を理解し、それに応じた実践ができる。	各種目の特性を理解できる。	各種目の特性を理解できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	スポーツテストを実施することで自分の体力レベルを把握する。健康的な社会生活を送るためのスポーツの重要性を認識するとともに、生涯にわたってスポーツを楽しむための基盤を身に付ける。既習の球技系種目について、競技規則を十分に理解し、互いの安全を確保しながら、自主的かつ協力し合って練習計画と試合運営ができるように学ぶ。				
授業の進め方・方法					
注意点	ジャージを着用し、使用施設にあったシューズを使用する。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンスおよびスポーツテスト(握力、長座体前屈、上体起こし、反復横跳び)	握力、長座体前屈、上体起こし、反復横跳びの測定を実施することができる。	
		2週	ガイダンスおよびスポーツテスト(50m走、立ち幅跳び、ハンドボール投げ)	50m走、立ち幅跳び、ハンドボール投げの測定を実施することができる。	
		3週	ガイダンスおよびスポーツテスト(シャトルラン)	シャトルランの測定を実施することができる。	
		4週	ソフトボール(7人制、10人制、9人制)	グループメンバーと協力してソフトボールの練習ができる。	
		5週	ソフトボール(7人制、10人制、9人制)	グループメンバーと協力してソフトボールの試合ができる。	
		6週	テニス(シングルス、ダブルス)	グループメンバーと協力してテニスの練習ができる。	
		7週	テニス(シングルス、ダブルス)	グループメンバーと協力してテニスの試合ができる。	
		8週	バレーボール(6人制)	グループメンバーと協力してバレーボールの練習ができる。	
	2ndQ	9週	バレーボール(6人制)	グループメンバーと協力してバレーボールの試合ができる。	
		10週	卓球(シングルス、ダブルス)	グループメンバーと協力して卓球の練習ができる。	
		11週	卓球(シングルス、ダブルス)	グループメンバーと協力して卓球の試合ができる。	
		12週	バスケットボール(3on3のゲーム、5vs5のゲーム)	グループメンバーと協力してバスケットボールの練習ができる。	
		13週	バスケットボール(3on3のゲーム、5vs5のゲーム)	グループメンバーと協力してバスケットボールの試合ができる。	
		14週	バドミントン(シングルス、ダブルス)	グループメンバーと協力してバドミンントンの練習ができる。	
		15週	バドミントン(シングルス、ダブルス)	グループメンバーと協力してバドミンントンの試合ができる。	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		スポーツテスト	実技課題	合計	
総合評価割合		20	80	100	
基礎的能力		20	80	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語ⅡA
科目基礎情報					
科目番号	05103	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	一般教育	対象学年	5		
開設期	前期	週時間数	1		
教科書/教材	Our Place in the Universe (成美堂) / 自作プリント (リスニング教材)				
担当教員	鈴木 基伸, 水口 陽子				
到達目標					
<p>(ア) 毎分160語～180語の速さの、様々な場面の英語を聞き、内容把握ができる。</p> <p>(イ) 科学英語の各パラグラフの内容把握ができる。</p> <p>(ウ) 英語の文構造や語法を理解した正確な文の読み取りや作文ができる。</p> <p>(エ) 文脈から適切な語彙を選択することができる。</p> <p>(オ) 指示により適切な英語構文を完成させることができる。</p> <p>(カ) 知らない単語の意味を文脈の中で推測することができる。</p> <p>(キ) TOEIC350点相当の英語運用能力を有する。</p> <p>(ク) 高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を習得する。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安(可)	未到達レベルの目安		
評価項目(ア)	毎分160語～180語の速さの、様々な場面の英語を聞き、内容把握ができる。	毎分120語～150語の速さの英文を、2回繰り返して聞くといった予備的な活動を経て、毎分160語～180語の速さの、様々な場面の英語を聞き、内容把握ができる。	毎分160語～180語の速さの、様々な場面の英語を聞き、内容把握ができない。		
評価項目(イ)	科学英語の各パラグラフの内容把握ができる。	科学英語の背景知識の理解、および、図式化によるパラグラフの構造の理解といった予備的な活動を経て、科学英語の各パラグラフの内容把握ができる。	科学英語の各パラグラフの内容把握ができない。		
評価項目(ウ)	英語の文構造や語法を理解した正確な文の読み取りや作文ができる。	英文の音読や文構造や語法の関連問題演習といった予備的な活動を経て、英語の文構造や語法を理解した正確な文の読み取りや作文ができる。	英語の文構造や語法を理解した正確な文の読み取りや作文ができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	この科目は総合的な英語力を高めることを目的とするものである。具体的には、これまでに学習した語彙(約3300語)・文法・語法などを確認しながら、さまざまなトピックの英文を速読・多読で身につけたスキルを基に直読直解方式で読む。同時にリスニング力向上をめざしてさまざまな場面の英語を聞き内容を理解する訓練を行う。これらの活動を通して、活きた英語力を養成していく。				
授業の進め方・方法					
注意点	TOEIC350点相当とは、本授業が受講者全員の350点を保証するという意味ではなく、科目成績とTOEICとの回帰曲線において科目成績60点がTOEIC350点に対応することを意味する。x000D (自学自習内容) 毎週、授業内容に該当するUnitの英文を読み、語彙、文法、内容に関する問いなどのタスクを行うこと。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1週	オリエンテーション 英語診断テスト	英語IIの授業内容を把握する。英語診断テストを通して、現時点の自身の英語力を把握する。		
	2週	英文読解① ("Impact Craters") スニング演習①	リ	本文全体の概要を把握するとともに、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習(リーディング・リスニング)を通して理解する。	
	3週	英文読解② ("Tides") スニング演習②	リ	本文全体の概要を把握するとともに、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習(リーディング・リスニング)を通して理解する。	
	4週	英文読解③ ("The Great Pacific Garbage Patch") スニング演習③	リ	本文全体の概要を把握するとともに、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習(リーディング・リスニング)を通して理解する。	
	5週	英文読解④ ("Colors in the Sky") スニング演習④	リ	本文全体の概要を把握するとともに、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習(リーディング・リスニング)を通して理解する。	
	6週	英文読解⑤ ("Climate Modeling") リスニング演習⑤		本文全体の概要を把握するとともに、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習(リーディング・リスニング)を通して理解する。	
	7週	英文読解⑥ ("Dark Matter and Dark Energy") リスニング演習⑥		本文全体の概要を把握するとともに、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習(リーディング・リスニング)を通して理解する。	
	8週	英文読解⑦ ("Natural Selection") リスニング演習⑦		本文全体の概要を把握するとともに、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習(リーディング・リスニング)を通して理解する。	
	9週	英文読解⑧ ("Rockets") リスニング演習⑧		本文全体の概要を把握するとともに、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習(リーディング・リスニング)を通して理解する。	
	10週	英文読解⑨ ("The Hazards of Space Travel") リスニング演習⑨		本文全体の概要を把握するとともに、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習(リーディング・リスニング)を通して理解する。	

		11週	英文読解⑩ ("The Cassini-Hugens Mission") リスニング演習⑩	本文全体の概要を把握するとともに、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習（リーディング・リスニング）を通して理解する。
		12週	英文読解⑪ ("Space Junk") リスニング演習⑪	本文全体の概要を把握するとともに、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習（リーディング・リスニング）を通して理解する。
		13週	復習①（英文読解・リスニング演習①～⑥）	第2～7週の本文の総復習（リーディング・リスニング）を通して、各英文の概要と、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を確認する。
		14週	復習②（英文読解・リスニング演習⑦～⑪）	第7～12週の本文の総復習（リーディング・リスニング）を通して、各英文の概要と、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を確認する。
		15週	まとめ	第2、3、4週の英文の内容理解を英語発表の形で、各自、示す。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	課題	合計	
総合評価割合		80	20	100	
基礎的能力		80	20	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	文学特論
科目基礎情報					
科目番号	05104		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般教育		対象学年	5	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	プリント 『常用国語便覧』 / 授業中、適宜指示する。				
担当教員	山口 比砂				
到達目標					
(ア) 文学理論の用語を正しく理解し、文学理論を使ってテキスト分析ができる (イ) 文学テキストをメディアや経済、国民国家形成との関わりから分析できる。 (ウ) 印刷物やインターネットから、報告・論文の目的にふさわしい情報を収集できる。 (エ) 収集した情報を分析して取捨選択し、報告・論文の目的に応じて整理できる。 (オ) 整理した情報をもとに、主張が効果的に伝わるように論理構成や展開を工夫して、報告・論文を作成できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目(ア)	文学理論の理解に基づき、考察を深める論文作成にふさわしい情報を収集ができる。	文学理論の基本的な用語や批評理論が理解できる。	文学理論の基本的な用語や批評理論が理解できない。		
評価項目(イ)	文学環境論の理解に基づき、考察を深める論文作成にふさわしい情報を収集ができる。	文学環境論の基本的な考え方や分析方法が理解できる。	文学環境論の基本的な考え方や分析方法が理解できない。		
評価項目(ウ)	収集した情報を分析・整理して、主張が効果的に伝わるよう工夫して論文を作成できる。	収集した情報を論文の目的に応じて分析・整理できる。	収集した情報を論文の目的に応じて分析・整理できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	本講義では、明治から大正にかけての日本近代文学の小説を「文学理論」(内在的アプローチ)と「文学環境論」(外在的アプローチ)の二方面から分析していく。小説の内部を分析する「文学理論」では、虚構世界構築のために使われている技法など、批評理論を用いてテキストを検証する。また、小説の外部に注目する「文学環境論」では、文学を社会的な文学現象として捉え、メディアと読者のあり方を検証する。これらの考察により、我々を取り巻く言説内部のメカニズムを客観的に分析する力を獲得するだけでなく、言説を様々な領域との相互作用の中で理解し、広く世界を概観できる力を身に付けることを目標とする。				
授業の進め方・方法					
注意点	小説を鑑賞するのではなく、小説の構造や受容の諸相を「分析」することが目的であることを理解した上で受講すること。初回の講義において、講義全体の概要、課題などの詳細を説明する。受講希望者は必ず出席すること。x000D_ 自学自習内容: 指示したテキストは通読した上で受講すること。授業後は必ず復習し、学習内容の理解を深めること。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	イントロダクション — 文学理論・文学環境論とは何か	文学理論・文学環境論について、その概要を理解できる。	
		2週	文学理論 1 コード — 小説の枠組みと読みの指標	小説の枠組みと読みの指標(コード)について理解できる。	
		3週	文学理論 2 ストーリー — 小説の時間と物語言説	小説の物語時間と物語言説の関係について理解できる。	
		4週	文学理論 3 物語論 — 語り手の役割とは何か	物語論の種類と物語における語り手の役割について理解できる。	
		5週	文学理論 4 間テキスト性 — オリジナルとパロディ	テキスト概念と間テキスト性について理解できる。	
		6週	文学理論 5 テキスト生成論 — 精神分析と草稿研究	草稿研究と精神分析の関係性について理解できる。	
		7週	文学理論 6 ジェンダー理論 — 女性はどう描かれているか	小説世界の女性の描かれ方をジェンダー的視点から理解できる。	
		8週	文学環境論 1 文学者のイメージ形成 — 肖像写真と文学	文学者のイメージ形成と肖像写真の関係を理解できる。	
	2ndQ	9週	文学環境論 2 神話化する作家像 — 夏目漱石と宮沢賢治	神話化する作家像の形成とテキストの関係について理解できる。	
		10週	文学環境論 3 国民国家形成と文学 — 立身出世の系譜	国民国家形成と文学の関係を立身出世の系譜から理解できる。	
		11週	文学環境論 4 「日本」の再発見 — 国民表象としての文学	国民国家形成期の国民表象としての文学のあり方を理解できる。	
		12週	文学環境論 5 「声」が創る心的共同体 — 大衆の求める物語	近代日本における国民国家形成と大衆芸能の関係を理解できる。	
		13週	文学環境論 6 経済活動としての文学 — 明治の出版事情	明治の出版事情に注目し、経済と文学の関係を理解できる。	
		14週	文学環境論 7 大正文学市場と芥川龍之介の戦略	大正文学市場と芥川龍之介のイメージ戦略について理解できる。	
		15週	まとめ(学習内容・学習成果を振り返り、整理する)	文学理論・文学環境論を学ぶことの意味を理解できる。	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					

	定期試験	課題	合計
総合評価割合	60	40	100
基礎的能力	60	40	100

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	ドイツ語 A
科目基礎情報					
科目番号	05105		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 1	
開設学科	一般教育		対象学年	5	
開設期	前期		週時間数	1	
教科書/教材	Schritte international A1/1 Hueber				
担当教員	谷口 祐美子				
到達目標					
(ア)簡単なあいさつができる (イ)自己紹介ができる (ウ)規則動詞の人称変化を理解して使える (エ)sein動詞の人称変化ができる (オ)habenの人称変化ができる (カ)名詞の性と複数形を理解する (キ)数字を理解して使える (ク)否定冠詞を理解して使える (ケ)不規則動詞の人称変化を理解して使える					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目(ア)	簡単なあいさつができる。	あいさつが理解できる。	簡単なあいさつができない。		
評価項目(イ)	自己紹介ができる。	自己紹介(名前・年齢・出身地)ができる	自己紹介ができない。		
評価項目(ウ)	規則動詞の人称変化を理解して使える。	規則動詞の人称変化が理解できる。	規則動詞の人称変化が理解できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	ドイツ語文法の基礎を学ぶと同時に、コミュニケーション力をつけることを目標とします。「発話すること」と「聞くこと」に慣れることが最重要課題です。グループやペアでの練習による参加型授業を進めます。				
授業の進め方・方法					
注意点	初心者・初級者向けの授業です				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	L1 あいさつ1	あいさつ(基本)ができる。	
		2週	L1 自己紹介 アルファベット	自己紹介ができる。アルファベット体系が理解できる。	
		3週	L1 動詞の現在人称変化 sein動詞	動詞の現在人称変化、sein動詞が理解できる。	
		4週	L2 あいさつ2	あいさつ(応用)ができる。	
		5週	L2 家族と友達 数字1	家族と友達、数字1が理解できる。	
		6週	L2 不規則動詞 1 haben	不規則動詞 habenの活用が理解できる。	
		7週	L2 まとめと練習	まとめと練習を通してドイツ語の基礎が理解できる。	
		8週	L3 名詞の性 不定冠詞と否定冠詞	名詞の性、不定冠詞と否定冠詞が理解できる。	
	2ndQ	9週	L3 名詞の複数形	名詞の複数形が理解できる。	
		10週	L3 数字2 買い物	数字2、買い物の表現が理解できる。	
		11週	L3 まとめと練習	まとめと練習を通してドイツ語の基礎が理解できる。	
		12週	L4 住まい 数字3	住まい、数字3が理解できる。	
		13週	L4 定冠詞 否定形	定冠詞、否定形が理解できる	
		14週	L4 住居の広告を読む	住居の広告を読むことができる。	
		15週	L4 まとめと練習	まとめと練習を通してドイツ語の基礎が理解できる。	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	中間試験	定期試験	合計		
総合評価割合	40	60	100		
基礎的能力	40	60	100		

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語Ⅲ
科目基礎情報					
科目番号	05106		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般教育		対象学年	5	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	Seek neo 4 英語総合問題 (第一学習社)				
担当教員	長岡 美晴,水口 陽子,市川 裕理				
到達目標					
(ア)英文の各パラグラフの内容把握ができる。 (イ)英語の文構造や語法を理解した正確な文の読み取りや作文ができる。 (ウ)文脈から適切な語彙を選択することができる。 (エ)高等学校指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を習得する。 (オ)毎分100語程度の速度で平易な物語文などを読み、その概要を把握できる。 (カ)TOEIC350点相当の英語運用能力を有する。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目(ア)	英文の各パラグラフの内容把握ができ、説明できる。		英文の各パラグラフの内容把握ができる。		英文の各パラグラフの内容が理解できない。
評価項目(イ)	英語の文構造や語法を理解した正確な文の読み取りや作文ができる		英語の文構造や語法を理解した文の読み取りができる。		英語の文構造や語法を理解した文の読み取りができない。
評価項目(ウ)	文脈から適切な語彙を選択することができる。		語彙を正しく理解し、習得することができる。		語彙を正しく理解することができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	英語総合問題を通して、これまでの本科の英語学習の文法面、語彙・構文面・読解面等の重要事項の整理をするとともに、大学編入試験や就職試験に対応する英語力を養成する。授業では、精読に力点を置き、文構造を正確に捉えながら、文意を的確に把握する演習を行う。				
授業の進め方・方法					
注意点	必ず教科書の問題を解いてから授業に臨むこと。またTOEIC350点相当とは、本授業が受講者全員の350点を保証するという意味ではなく、科目成績とTOEICとの回帰曲線において科目成績60点がTOEIC350点に対応することを意味する。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	情報メディアについての英文読解 文法：動詞	情報メディアについての英文を読み、内容把握ができる	
		2週	「メール交換」と絵文字についての英文読解 文法：助動詞	「メール交換」と絵文字についての英文を読み、内容把握ができる	
		3週	日本人留学生についての英文読解 文法：受動態	日本人留学生についての英文を読み、内容把握ができる	
		4週	ものの貸し借りについての英文読解 文法：to不定詞	ものの貸し借りについての英文を読み、内容把握ができる	
		5週	読み書きのできない親についての英文読解 文法：動名詞	読み書きのできない親についての英文を読み、内容把握ができる	
		6週	騒音についての英文読解 文法：分詞	騒音についての英文を読み、内容把握ができる。	
		7週	消費者の生産者に対する思いについての英文読解 文法：比較	消費者の生産者に対する思いについての英文を読み、内容把握ができる	
		8週	イングランド人の郷土愛についての英文読解 文法：関係詞	イングランド人の郷土愛についての英文を読み、内容把握ができる	
	2ndQ	9週	タンブルフィールドについての英文読解 文法：仮定法	タンブルフィールドについての英文を読み、内容把握ができる	
		10週	中世ヨーロッパの画家についての英文読解 文法：名詞・代名詞	中世ヨーロッパの画家についての英文を読み、内容把握ができる	
		11週	ポーランド語と英語のイメージの相違についての英文読解 文法：副詞	ポーランド語と英語のイメージの相違についての英文を読み、内容把握ができる	
		12週	写真家ベルトの旅についての英文読解 文法：接続詞・前置詞	写真家ベルトの旅についての英文を読み、内容把握ができる	
		13週	ある文筆家の文章についての英文読解 文法：特殊構文①	ある文筆家の文章についての英文を読み、内容把握ができる	
		14週	ソマリア人が見る現代社会についての英文読解 文法：特殊構文②	ソマリア人が見る現代社会についての英文を読み、内容把握ができる	
		15週	総まとめ	文法のそれぞれの用法を理解し、使うことができる	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	課題	合計	
総合評価割合		80	20	100	

基礎的能力	80	20	100
-------	----	----	-----

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	社会科学特論 I
科目基礎情報					
科目番号	05108		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般教育		対象学年	5	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	テキストは特に指定しない。/テーマに応じて資料を配布する。				
担当教員	加藤 健				
到達目標					
(ア)歴史的バックグラウンドと経済思想の展開について理解することができる。 (イ)経済学が扱ってきたテーマの多様性について理解することができる。 (ウ)経済学者が取り上げた様々な問題を意味あるものとして捉えなおすことができる。 (エ)経済思想の歴史を学ぶことを通して、現代の「経済学」の前提となる見方を問い返すことができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目(ア)	現代社会における経済問題を、その思想的背景を踏まえて考察することができる。		歴史的バックグラウンドと経済思想の展開について理解することができる。		歴史的バックグラウンドと経済思想の展開について理解することができない。
評価項目(イ)	経済学が扱ってきたテーマの多様性について理解し、現代社会における経済問題について考察することができる。		経済学が扱ってきたテーマの多様性について理解することができる。		経済学が扱ってきたテーマの多様性について理解することができない。
評価項目(ウ)	経済学者が取り上げた様々な問題を意味あるものとして捉えなおし、現代社会における経済問題について考察することができる。		経済学者が取り上げた様々な問題を意味あるものとして捉えなおすことができる。		経済学者が取り上げた様々な問題を意味あるものとして捉えなおすことができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	人間が行う経済活動の在り方は時代や状況によって様々に変化するが、人間の諸行為を認識する学問としての経済学もまた現実を反映することによって変化していく。本講義では、経済学者が実際に取り組んだテーマや問題関心などを振り返ることによって、社会を認識する経済思想の多様な側面を考察していく。とりわけ、経済学における「人間の経済活動の在り方」や「社会の在り方」に関する議論を中心に取り上げる。				
授業の進め方・方法					
注意点	講義中に取り上げた論点について、講義時間以外にも原典資料や関連文献等を活用し、積極的に考察を深めることが望ましい。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	イントロダクション：経済思想と経済学	経済思想の多様な側面を理解できる。	
		2週	市民社会から文明社会へ (1)：ホッブズ、ロック	ホッブズ、ロックの社会契約論の概要について理解できる。	
		3週	市民社会から文明社会へ (2)：ルソー、モンテスキュー、ヒューム	ルソー、モンテスキュー、ヒュームの思想の概要について理解できる。	
		4週	再生産秩序と自由一重農主義：ケネー	ケネーの思想の概要について理解できる。	
		5週	自然的自由の経済思想 (1)：スミス『道徳感情論』	スミス『道徳感情論』の概要について理解できる。	
		6週	自然的自由の経済思想 (2)：スミス『国富論』	スミス『国富論』の概要について理解できる。	
		7週	市場社会における貧困と過剰：ゴドウィン、マルサス	ゴドウィン、マルサスの比較検討し、その思想の概要について理解できる。	
		8週	市場経済の構造と発展モデル：リカード	リカードの思想の概要について理解できる。	
	2ndQ	9週	功利主義的統治と経済的自由主義 (1)：ベンサム	ベンサムの思想の概要について理解できる。	
		10週	功利主義的統治と経済的自由主義 (2)：J.S.ミル	J.S.ミルの思想の概要について理解できる。	
		11週	限界革命：ジェヴォンズ、メンガー、ワルラス	限界革命の概要について理解できる。	
		12週	市場と組織の経済学：マーシャル	マーシャルの思想の概要について理解できる。	
		13週	ケンブリッジの経済思想：ケインズ	ケインズの思想の概要について理解できる。	
		14週	制度進化の経済思想：ヴェブレン、ミッチェル、コモンズ	制度学派の思想の概要について理解できる。	
		15週	理解度の確認		
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	課題	合計	
総合評価割合		80	20	100	
基礎的能力		80	20	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	保健体育V B
科目基礎情報					
科目番号	05201		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	実技		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般教育		対象学年	5	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	「ACTIVE SPORTS」(大修館書店) / プリント ビデオ教材				
担当教員	伊藤 道郎, 高津 浩彰, 加藤 貴英, 鈴木 康平				
到達目標					
<p>(ア)自ら積極的に運動に取り組むことができる。 (イ)練習やゲームを自発的にかつ協力して計画し、実践することができる。 (ウ)各種目の特性を理解し、それに応じた試合運営ができる。 (エ)一定の運動量を獲得し、基礎体力を高める。 (オ)自他の健康・安全にも留意して学習が進められる。 (カ)生涯にわたって運動に親しむ習慣を身に付ける。 (キ)できるだけ速く長い距離を走ることができる。</p>					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
	決められた人数でグループを作り、そのグループ内のメンバーと協力して様々な種目の試合が実施できる。	グループ内のメンバーと協力して様々な種目の試合が実施できる。	グループ内のメンバーと協力して様々な種目の試合が実施できない。		
	各競技種目に応じた練習計画を組み立てることができる。	各競技種目に応じた練習計画の組み立てに協力することができる。	各競技種目に応じた練習計画の組み立てに協力できない。		
	長距離で決められた距離をできるだけ早く走ることができる。	長距離で決められた距離を走ることができる。	長距離で決められた距離を走ることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	健康的な社会生活を送るためのスポーツの重要性を認識するとともに、生涯にわたってスポーツを楽しむための基盤を確立する。いくつかの球技系種目の試合(大会)運営を協力して行うことにより、企画力、実行力、協調性、コミュニケーション能力を身に付ける。また、持久力の保持増進のために長距離を最大限に努力して走ることができるようにする。				
授業の進め方・方法					
注意点	ジャージを着用し、使用施設にあったシューズを使用する。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	グループ分け、試合方法・運営について確認する。	
		2週	サッカー(フットサル、11人制)	受講生が協力してサッカーの試合運営をし、試合を実施する。	
		3週	サッカー(フットサル、11人制)	受講生が協力してサッカーの試合運営をし、試合を実施する。	
		4週	サッカー(フットサル、11人制)	受講生が協力してサッカーの試合運営をし、試合を実施する。	
		5週	ソフトボール(7人制、10人制、9人制)	受講生が協力してソフトボールの試合運営をし、試合を実施する。	
		6週	ソフトボール(7人制、10人制、9人制)	受講生が協力してソフトボールの試合運営をし、試合を実施する。	
		7週	ソフトボール(7人制、10人制、9人制)	受講生が協力してソフトボールの試合運営をし、試合を実施する。	
		8週	バスケットボール(3on3のゲーム、5vs5のゲーム)	受講生が協力してバスケットボールの試合運営をし、試合を実施する。	
	4thQ	9週	バスケットボール(3on3のゲーム、5vs5のゲーム)	受講生が協力してバスケットボールの試合運営をし、試合を実施する。	
		10週	バスケットボール(3on3のゲーム、5vs5のゲーム)	受講生が協力してバスケットボールの試合運営をし、試合を実施する。	
		11週	バレーボール(6人制)	受講生が協力してバレーボールの試合運営をし、試合を実施する。	
		12週	バレーボール(6人制)	受講生が協力してバレーボールの試合運営をし、試合を実施する。	
		13週	バドミントン(シングルス、ダブルス)	受講生が協力してバドミントンの試合運営をし、試合を実施する。	
		14週	バドミントン(シングルス、ダブルス)	受講生が協力してバドミントンの試合運営をし、試合を実施する。	
		15週	長距離走(男子5000m、女子3000mのタイムトライアル)	決められた距離を走ることができる。	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合		耐寒マラソン	実技課題	合計	

総合評価割合	20	80	100
基礎的能力	20	80	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語ⅡB
科目基礎情報				
科目番号	05202	科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 1	
開設学科	一般教育	対象学年	5	
開設期	後期	週時間数	1	
教科書/教材	Our Place in the Universe(成美堂) / 自作プリント (リスニング教材)			
担当教員	鈴木 基伸,水口 陽子			

到達目標				
<p>(ア) 毎分160語～180語の速さの、様々な場面の英語を聞き、内容把握ができる。</p> <p>(イ) 科学英語の各パラグラフの内容把握ができる。</p> <p>(ウ) 英語の文構造や語法を理解した正確な文の読み取りや作文ができる。</p> <p>(エ) 文脈から適切な語彙を選択することができる。</p> <p>(オ) 指示により適切な英語構文を完成させることができる。</p> <p>(カ) 知らない単語の意味を文脈の中で推測することができる。</p> <p>(キ) TOEIC350点相当の英語運用能力を有する。</p> <p>(ク) 高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を習得する。</p>				

ルーブリック			
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安(可)	未到達レベルの目安
評価項目(ア)	毎分160語～180語の速さの、様々な場面の英語を聞き、内容把握ができる。	毎分120語～150語の速さの英文を、2回繰り返して聞くといった予備的な活動を経て、毎分160語～180語の速さの、様々な場面の英語を聞き、内容把握ができる。	毎分160語～180語の速さの、様々な場面の英語を聞き、内容把握ができない。
評価項目(イ)	科学英語の各パラグラフの内容把握ができる。	科学英語の背景知識の理解、および、図式化によるパラグラフの構造の理解といった予備的な活動を経て、科学英語の各パラグラフの内容把握ができる。	科学英語の各パラグラフの内容把握ができない。
評価項目(ウ)	英語の文構造や語法を理解した正確な文の読み取りや作文ができる。	英文の音読や文構造や語法の関連問題演習といった予備的な活動を経て、英語の文構造や語法を理解した正確な文の読み取りや作文ができる。	英語の文構造や語法を理解した正確な文の読み取りや作文ができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等	
概要	前学期に引き続いて、この科目は総合的な英語力を高めることを目的とするものである。具体的には、これまでに学習した語彙(約3300語)・文法・語法などを確認しながら、さまざまなトピックの英文を速読・多読で身につけたスキルを基に直読直解方式で読む。同時にリスニング力向上をめざしてさまざまな場面の英語を聞き内容を理解する訓練を行う。これらの活動を通して、活きた英語力を養成していく。
授業の進め方・方法	
注意点	TOEIC350点相当とは、本授業が受講者全員の350点を保証するという意味ではなく、科目成績とTOEICとの回帰曲線において科目成績60点がTOEIC350点に対応することを意味する。x000D (自学自習内容) 毎週、授業内容に該当するUnitの英文を読み、語彙、文法、内容に関する問いなどのタスクを行うこと。

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画				
	週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	英文読解① ("Saving the Kakapo") リスニング演習①	本文全体の概要を把握するとともに、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習(リーディング・リスニング)を通して理解する。
		2週	英文読解② ("The Birth of Genetics") リスニング演習②	本文全体の概要を把握するとともに、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習(リーディング・リスニング)を通して理解する。
		3週	英文読解③ ("Coral Reefs") リスニング演習③	本文全体の概要を把握するとともに、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習(リーディング・リスニング)を通して理解する。
		4週	英文読解④ ("Life in Extreme Environments") リスニング演習④	本文全体の概要を把握するとともに、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習(リーディング・リスニング)を通して理解する。
		5週	英文読解⑤ ("The Monarch Butterflies") リスニング演習⑤	本文全体の概要を把握するとともに、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習(リーディング・リスニング)を通して理解する。
		6週	英文読解⑥ ("Earth's Human Population") リスニング演習⑥	本文全体の概要を把握するとともに、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習(リーディング・リスニング)を通して理解する。
		7週	英文読解⑦ ("Lasers") リスニング演習⑦	本文全体の概要を把握するとともに、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習(リーディング・リスニング)を通して理解する。
		8週	英文読解⑧ ("Renewable Energy") リスニング演習⑧	本文全体の概要を把握するとともに、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習(リーディング・リスニング)を通して理解する。
	4thQ	9週	英文読解⑨ ("Keeping Us Alive for Longer") リスニング演習⑨	本文全体の概要を把握するとともに、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習(リーディング・リスニング)を通して理解する。

		10週	英文読解⑩ ("Robots") リスニング演習⑩	本文全体の概要を把握するとともに、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習（リーディング・リスニング）を通して理解する。
		11週	英文読解⑪ ("Plastics") リスニング演習⑪	本文全体の概要を把握するとともに、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習（リーディング・リスニング）を通して理解する。
		12週	復習①（英文読解・リスニング演習①～③）	第1～3週の本文の総復習（リーディング・リスニング）を通して、各英文の概要と、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を確認する。
		13週	復習②（英文読解・リスニング演習④～⑥）	第4～6週の本文の総復習（リーディング・リスニング）を通して、各英文の概要と、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を確認する。
		14週	復習③（英文読解・リスニング演習⑦～⑨）	第7～9週の本文の総復習（リーディング・リスニング）を通して、各英文の概要と、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を確認する。
		15週	復習④（英文読解・リスニング演習⑩・⑪）	第10・11週の本文の総復習（リーディング・リスニング）を通して、各英文の概要と、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を確認する。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	課題	合計	
総合評価割合		80	20	100	
基礎的能力		80	20	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	ドイツ語 B
科目基礎情報					
科目番号	05204	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	一般教育	対象学年	5		
開設期	後期	週時間数	1		
教科書/教材	Schritte international A1/1 Hueber				
担当教員	谷口 祐美子				
到達目標					
(ア)時間の表現を正しく使うことができる (イ)分離動詞を正しく使うことができる (ウ)4格を正しく使うことができる (エ)不規則動詞を正しく使うことができる (オ)助動詞を正しく使うことができる (カ)現在完了形を正しく使うことができる					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目(ア)	時間の表現を正しく使うことができる。	時間の表現を使うことができる。	時間の表現を使うことができない。		
評価項目(イ)	分離動詞を正しく使うことができる。	分離動詞を使うことができる。	分離動詞を使うことができない。		
評価項目(ウ)	4格を正しく使うことができる。	4格を使うことができる。	4格を使うことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	ドイツ語Aで学習した基礎を前提としたクラスです。引き続きアクティブな練習を通して、基本的なコミュニケーション力をつけることを目標とします。ドイツ語Aと同様に「発話すること」と「聞くこと」に慣れることが最重要課題です。グループやペアでの練習による参加型授業を進めます。				
授業の進め方・方法					
注意点					
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	L1～L4 復習	L1～L4 で学習した表現が理解できる。	
		2週	L5 時間	時間に関する表現が理解できる。	
		3週	L5 分離動詞	分離動詞が理解できる。	
		4週	L5 一日の出来事	一日の出来事に関する表現が理解できる。	
		5週	L5 語順	ドイツ語の語順が理解できる。	
		6週	L6 天気	天気に関する表現が理解できる。	
		7週	L6 注文する	注文に関する表現が理解できる。	
		8週	L6 4格 否定冠詞	4格、否定冠詞が理解できる。	
	4thQ	9週	L6 不規則動詞 2	不規則動詞 2 が理解できる。	
		10週	L7 助動詞 können	助動詞 könnenの活用が理解できる。	
		11週	L7 助動詞 wollen	助動詞 wollenの活用が理解できる。	
		12週	L7 現在完了形 1	現在完了形 1 が理解できる。	
		13週	L7 現在完了形 2	現在完了形 2 が理解できる。	
		14週	助動詞と現在完了形 補足	助動詞と現在完了形が理解できる。	
		15週	まとめ	まとめを通してドイツ語の基礎が理解できる (活用できる)。	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	中間試験	定期試験	合計		
総合評価割合	40	60	100		
基礎的能力	40	60	100		

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	社会科学特論Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	05208		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般教育		対象学年	5	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	レジュメ・法令のコピーなどの資料を配布する。/ 『行政法Visual Materials』高橋滋 編著 (有斐閣) ISBN 978-4641131712、『はじめての行政法 第3版補訂版』石川敏行ほか (有斐閣) ISBN 978-4641220553、『行政法〔第5版〕』櫻井敬子・橋本博之 (弘文堂) ISBN 978-4335356605				
担当教員	佃 貴弘				
到達目標					
<p>(ア) 法学全体における行政法の位置づけを理解し、電気事業法・都市計画法・建築基準法などが行政法に属することを理解する。 (イ) 権力分立原理を踏まえ、国家権力行使の基本的な考え方となる「法律による行政の原理」を理解する。 (ウ) 建築基準法・都市計画法の定めから、伝統的な行政法学の考え方 (3段階構造モデル) を理解する。 (エ) 電気事業法や建築基準法がその内容の一部を政省令に委任している意味を、「法律による行政の原理」を踏まえて理解する。 (オ) 法命題 (法律要件と法律効果の組合せ) という観点から、行政行為の意味を理解する。 (カ) 行政行為の内容を建築基準法などから拾い出し、法律行為 (契約など) と比較して、理解する。 (キ) 個人情報保護のあり方を、関係データベースの考え方と関連させて、理解する。 (ク) 国・公務員の賠償責任 (たとえば河川の管理の瑕疵) について、民法の不法行為責任・製造物責任と関連させて、理解する。 (ケ) 日本の裁判制度・違憲審査制の特質を理解し、訴訟要件 (訴訟を提起するための前提条件) を理解する。</p>					
ループリック					
		理想的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安(可)	未到達レベルの目安	
評価項目(ア)		法学全体における行政法の位置づけ、行政法に属する法律 (都市計画法など) を理解している。	法学全体における行政法の位置づけを理解している。	法学全体における行政法の位置づけを理解していない。	
評価項目(イ)		権力分立原理を踏まえて、「法律による行政の原理」を理解している。	国家権力行使の基本的な考え方となる「法律による行政の原理」を、表面的に理解している。	「法律による行政の原理」が指し示す内容を知らない。	
評価項目(ウ)		建築基準法・都市計画法の定めから、行政法の考え方 (3段階構造モデル) を理解している。	行政法の考え方 (3段階構造モデル) を、表面的に理解している。	伝統的な行政法学の考え方 (3段階構造モデル) を知らない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<p>この科目では、行政法を中心に、工学と関連する法学の分野を扱っていく。電気事業法・都市計画法・建築基準法などの行政法を、専門科目として学修してきた学生もいるであろう。その学修のなかで、疑問に感じることがある。その疑問の多くは、法学特有の事情が理由であり、法学の観点から見れば理解しやすい。それを教えるのが、この科目の狙いである。</p> <p>この科目は、行政法というフィルターを通じて、これら個別行政法が「なぜそのように定められているのか？」などの疑問に答えていくことを目標としている。この目標を達成するため、行政法の授業の流れに従い、法学Ⅰおよび法学Ⅱの授業内容を再確認しつつ、毎回の授業内容と工学分野との関連性 (各授業内容に関連する主な達成度目標を示す) を述べていく予定である。</p>				
授業の進め方・方法	授業内容を理解しているを確認するために、毎回、小テストを実施する。難易度の高い問題は、レポートとして出題する。				
注意点	授業内容の[No.??]は、上記『行政法Visual Materials』の該当箇所を示している。予習・復習のために、図書館で、その箇所に目を通しておくことが望ましい。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	行政法序論—公法と私法の違い[No.1]、行政法と憲法・民法との関係	法学全体における行政法の位置づけを理解し、都市計画法などが行政法に属することを理解する。	
		2週	行政法の基本原理—法律による行政の原理[No.5]、3段階構造モデル (法律→行政行為→強制行為)	権力分立、国家権力行使の基本的な考え方となる「法律による行政の原理」を理解する。	
		3週	行政主体 (国) —憲法の定める国会と内閣の関係、国の行政組織[No.6]、行政機関・行政庁[No.10]	誰が行政権を行使できるのかを説明するために、「行政庁」などの専門用語を理解する。	
		4週	行政主体 (地方公共団体) —憲法・地方自治法の定める地方自治制度[No.7]、国と地方公共団体の関係[No.8]	地方自治に関するルールと国と地方公共団体の関係について理解する。	
		5週	行政立法—法規命令 (政令・省令) [No.24]、行政規則 (訓令・通達など) [No.25]	電気事業法や建築基準法がその内容の一部を政省令に委任している意味を理解する。	
		6週	行政計画—都市計画 (用途地域制度など) 、用途地域内の建築物の用途制限[No.26]	建築基準法・都市計画法の定めから、伝統的な行政法学の考え方を理解する。	
		7週	行政行為の定義—行政行為の定義[No.12]、行政行為の分類[No.13]	法命題 (法律要件と法律効果の組合せ) という観点から、行政行為の意味を理解する。	
		8週	行政行為の効力—効力の内容 (公定力、不可争力など) [No.14]、無効な行政行為、行政行為の取消し・撤回[No.15]	法命題 (法律要件と法律効果の組合せ) という観点から、行政行為の意味を理解する。	
	4thQ	9週	実効性の確保—代執行・強制徴収[No.28]、即時強制 (破壊消防など) [No.29]、行政罰 (行政刑罰・秩序罰など) [No.30]	行政法に定められたルールに従わない場合の制裁として、どのようなものがあるかを理解する。	
		10週	行政処分—行政手続法の制定経緯とその内容[No.19]、行政裁量[No.16]	行政法のルールを実際に読み解き、その事前手続きを理解する。	
		11週	行政の非権力的活動形式—行政指導[No.23]、行政契約 (建築協定など) [No.27]	行政の非権力的活動形式 (行政指導・行政契約) を窓口行政を事例に理解する。	
		12週	情報法—情報公開[No.32]、個人情報保護[No.33]、個人情報にかかわる近時の問題	個人情報保護のあり方を、関係データベースの考え方と関連させて、理解する。	

		13週	国家賠償—不法行為制度との関連[No.43]、公権力行使に基づく責任[No.44]、営造物の設置管理にかかる責任[No.45]	国・公務員の賠償責任（たとえば河川の管理の瑕疵）について理解する。
		14週	行政訴訟—憲法の定める裁判制度、行政訴訟の種類[No.34]、行政訴訟（取消訴訟）の訴訟要件[No.38]	日本の裁判制度・違憲審査制の特質を理解し、訴訟を提起するための前提条件を理解する。
		15週	総合問題—憲法・民法・行政法に関わる近時の問題を扱う	憲法・民法・行政法に関わる近時の問題を知る。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	小テスト	レポート	合計
総合評価割合		65	15	20	100
基礎的能力		65	15	20	100

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	人文科学特論Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	05209	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般教育	対象学年	5		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	特に指定しない/村上陽一郎『科学・技術と社会』(ISU選書) ISBN: 4-89572-508-1, 池内了『科学・技術と現代社会 上・下』(みすず書房) ISBN:978-4-622-07834-0/978-4-622-07835-7				
担当教員	北野 孝志				
到達目標					
(ア)科学・技術の歴史や、その思想的背景について理解し説明できる。 (イ)科学・技術に関する日本の現状について理解し説明できる。 (ウ)科学・技術が抱えている現代的な課題について考え、自分なりの意見を持つことができる。 (エ)エンジニアの社会的責任について理解し、様々な倫理的問題について主体的に考えることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目(ア)	科学・技術の歴史や、その思想的背景、さらには日本の現状について理解し、それをきっかけにして自分なりの考えを持つことができる。	科学・技術の歴史や、その思想的背景、」さらには日本の現状について理解し、説明できる。	科学・技術の歴史や、その思想的背景、さらには日本の現状について理解し、説明できない。		
評価項目(イ)	科学・技術が抱えている現代的な課題について考え、自分なりの意見を持つことができる。	科学・技術が抱えている現代的な課題について理解し、説明することができる。	科学・技術が抱えている現代的な課題について理解し、説明することができない。		
評価項目(ウ)	エンジニアの社会的責任について理解し、様々な倫理的問題について主体的に考えるとともに、問題解決に向けて主体的に考えることができる。	エンジニアの社会的責任について理解し、説明することができる。	エンジニアの社会的責任について理解し、説明することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	現代において、科学・技術と社会とは切っても切り離せないものになっている。この授業では、こうした科学・技術に焦点を当て、世界や日本における歴史や思想、あるいは現代の倫理的問題など様々な問題を多面的に扱うことにより、科学・技術と社会という視点の重要さの認識を深めることを目的とする。また、エンジニアとして様々な問題を科学・技術との関わりから理解し、問題解決に向けて主体的に考える能力を身につけることも目標とする。				
授業の進め方・方法					
注意点	あらかじめ資料が提示された場合には、授業前に読んでおくこと。また、継続的に授業内容の復習を行うこと。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	科学・技術とは	(ア)科学・技術の歴史や、その思想的背景について理解し説明できる。	
		2週	科学・技術とは	(ア)科学・技術の歴史や、その思想的背景について理解し説明できる。	
		3週	「技術哲学」のはじまり	(ア)科学・技術の歴史や、その思想的背景について理解し説明できる。	
		4週	科学と技術の融合	(ア)科学・技術の歴史や、その思想的背景について理解し説明できる。	
		5週	科学と技術の融合	(ア)科学・技術の歴史や、その思想的背景について理解し説明できる。	
		6週	第2次世界大戦と技術哲学	(ア)科学・技術の歴史や、その思想的背景について理解し説明できる。	
		7週	日本社会と科学・技術	(イ)科学・技術に関する日本の現状について理解し説明できる。	
		8週	日本社会と科学・技術	(イ)科学・技術に関する日本の現状について理解し説明できる。	
	4thQ	9週	科学・技術と社会：科学技術政策と人材供給	(ウ)科学・技術が抱えている現代的な課題について理解し、説明することができる。	
		10週	科学・技術と社会：科学技術政策と人材供給	(ウ)科学・技術が抱えている現代的な課題について理解し、説明することができる。	
		11週	科学・技術と社会：科学技術政策と人材供給	(ウ)科学・技術が抱えている現代的な課題について理解し、説明することができる。	
		12週	科学・技術と倫理的責任	(エ)エンジニアの社会的責任について理解し、説明することができる。	
		13週	科学・技術と倫理的責任	(エ)エンジニアの社会的責任について理解し、説明することができる。	
		14週	現代社会における科学・技術に関する様々な問題	(ウ)科学・技術が抱えている現代的な課題について理解し、説明することができる。	
		15週	授業のまとめ	(ウ)科学・技術が抱えている現代的な課題について考え、自分なりの意見を持つことができる。	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合			
	定期試験	課題	合計
総合評価割合	50	50	100
基礎的能力	50	50	100